



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 株式会社ベネフィットジャパン 上場取引所 東
コード番号 3934 URL <http://www.benefitjapan.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐久間 寛
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部長 (氏名) 松下 正則 TEL 06 (6223) 9888
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	3,856	28.2	383	74.9	385	74.7	252	76.7
2025年3月期第1四半期	3,006	△6.9	219	5.8	220	6.1	142	3.3

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 252百万円 (76.7%) 2025年3月期第1四半期 142百万円 (3.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	43.01	42.86
2025年3月期第1四半期	24.25	24.19

(注) 前中間連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第1四半期	12,154	7,935	65.1	1,349.96
2025年3月期	11,861	7,940	66.8	1,349.40

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 7,917百万円 2025年3月期 7,925百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	43.00	43.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	0.00	—	79.00	79.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,042	33.7	1,455	19.3	1,366	10.6	921	10.9	156.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規1社〈社名〉株式会社S E N K A

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：有

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 当第1四半期連結累計期間より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信【添付資料】7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期1Q	6,004,448株	2025年3月期	6,004,448株
2026年3月期1Q	139,448株	2025年3月期	131,347株
2026年3月期1Q	5,866,475株	2025年3月期1Q	5,889,655株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループは、主力事業であるモバイルWi-FiやプリペイドSIMを含むインターネット通信サービス事業において、販売網の「点」から「面」への拡大戦略を加速させ取扱店舗数を1,600店舗から1,900店舗へ拡大し、特に1年利用が可能なプリペイドSIMの販売が好調に推移したことで契約回線数が過去最高を記録、販売パートナー戦略の奏功によるモバイルWi-Fiの販売台数の大幅な増加とそれに伴う売上および代理店手数料が増加した一方で、ロボット事業では販売コストの適正化を継続しつつ販売台数を伸ばすことで収益性の大幅な改善を図りました。

さらに5月には株式会社SENKAを買収して本格的にリユース事業に参入したことにより、既存事業の成長と新規事業の拡大が寄与してグループ全体として増収増益を達成しました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は売上高3,856,257千円（前年同期比28.2%増）、営業利益383,146千円（同74.9%増）、経常利益385,733千円（同74.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益252,310千円（同76.7%増）、契約回線数291,900回線（前年同期末比17.9%増）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、株式会社SENKAを連結子会社化したことに伴い、報告セグメント「リユース事業」を新たに追加しております、また連結子会社株式会社ライフスタイルウォーターでの新事業拡大の為、重要度を考慮して「その他」の区分から「ウォーターサーバー事業」として追加しております。また、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の区分で比較・分析しております。

（インターネット通信サービス事業）

インターネット通信サービス事業は、モバイルWi-Fiサービスを中心に、Wi-Fiレンタルサービス、MVNEサービス、プリペイドSIMサービスなどを展開しています。また、これらに付随するオプションサービスやコンテンツを提供し、幅広い通信関連サービスを網羅しています。

「点」としての販売拠点から「面」への展開戦略をさらに加速させ、当社商品の取扱店舗数は1,600店舗から1,900店舗へ拡大しました。

販売パートナー戦略が奏功しており、特に携帯ショップやテレマーケティング販路の拡大によって、モバイルWi-Fiの販売台数が増加しています。また、MVNEサービスの販売が引き続き好調に推移しており、契約回線数は26万回線に達し、過去最高を記録しました。

一方で、モバイルWi-Fiの販売台数増加に伴い、代理店手数料が大幅に増加したことで、増収減益となりました。

その結果、インターネット通信サービス事業は売上高2,621,089千円（前年同期比9.1%増）、営業利益394,334千円（同13.4%減）、契約回線数260,300回線（前年同期末比18.7%増）となりました。

（ロボット事業）

コミュニケーションロボットとSIMカードのセットを提供するだけでなく、特にシニアのお客様にも安心してご利用いただけるよう、安心保障サービスやスマートフォンを使ったライブサポートと特典を組み合わせた「ロボットコンシェルジュ」など、充実したオプションプランも提供しています。これにより、購入後も快適で安心な体験をお届けしています。

また、「ロボホンゼミナール」では、初心者でも安心して学べる使い方動画を提供することで、お客様の満足度向上や既存顧客との信頼関係の強化により継続的な利用につなげています。

「ロボットプラネット」では、人々が自分に合った家庭用ロボットと出会い、生活のパートナーとして迎え入れることをサポートするとともに、多様なロボットの紹介やオーナー同士が交流できるコミュニティの提供を通じ、ロボットとのふれあいによる心豊かな暮らしを支えています。

当第1四半期連結累計期間において、引き続きCM施策を展開するとともに、ブランド認知度向上を目的としたアンバサダー制度を導入し、189名を「ロボホンアンバサダー」として認定しました。「ロボホンアンバサダー」は現場応援やSNSでの投稿などの活動を行っていただいております、この取り組みにより、当社ロボット製品およびサービスの市場認知度が向上しております。

当社は、前期より取り組んできた販売コストの適正化を推進しながら、多様なコミュニケーションロボットの販売数を拡大し、さらにストック売上の着実な成長が事業全体の安定性と将来の成長基盤を強化しました。

また、サービスおよび業務全体の品質向上を最優先事項とし、顧客体験の質を向上させるための戦略を進めてきた結果、3四半期連続で増益となりました。

その結果、ロボット事業は売上高695,921千円（前年同期比26.5%増）、営業利益66,842千円（前年同期は営業損失104,485千円）、契約回線数31,600回線（前年同期末比12.1%増）となりました。

(ウォーターサーバー事業)

ウォーターサーバー市場は約570万世帯規模に拡大しており、特に利便性や経済性が評価される浄水型サーバーが急成長していることから、当社は新たに浄水型ウォーターサーバー「STILIS（スタイリス）」の販売を開始しました。

「STILIS」は業界トップクラスのスリム設計と大容量フィルターを採用し、交換頻度が少なく、宅配水の交換作業が不要で設置場所を選ばない利便性が特長です。価格競争力と快適性により宅配水ユーザーからの切り替えや新規顧客の開拓が進んでおり、市場の成長に合わせた事業拡大を図ってまいります。

その結果、ウォーターサーバー事業は売上高143,030千円（前年同期比288.7%増）、営業利益20,247千円（同60.9%増）となりました。

(リユース事業)

リユース市場規模が2030年には4兆円を超えると予測される中、「買取専科」を展開する急成長企業である株式会社SENKAを買収し、これにより、当社は、リユース事業に本格参入しました。株式会社SENKAは業界大手で培った高いオペレーションノウハウを持つメンバーにより設立2年で30店舗を達成し、他社にないプッシュ型集客を特徴にベストベンチャー100にも選ばれた成長企業です。

全国でのリユース品の流通拡大に向け、新たに3店舗を出店しました。また、当社が20年以上にわたって培った10,000店舗を超える販売ネットワークを活用し、催事買取の運用をスタートしました。

その結果、リユース事業は売上高365,447千円、営業利益7,482千円となりました。

以上のことから、当第1四半期連結会計期間末における契約回線数及びその他サービス利用者数は以下の通りとなりました。

	2025年6月末	2024年6月末	前年同月比
契約回線数（回線）	291,900	247,600	17.9%増
インターネット通信サービス事業	260,300	219,300	18.7%増
ロボット事業	31,600	28,200	12.1%増
その他サービス利用者数（人）（※）	90,200	86,300	4.5%増

（※）その他サービス利用者数はONLYOPTION、天然水宅配、スマートホームサービスの合計になります。なお通信サービスと同時に申込されている顧客については契約回線数と重複でのカウントになっております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

① 資産

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は11,110,426千円となり前連結会計年度末と比べ65,158千円増加いたしました。これは、主として現金及び預金の減少313,151千円、割賦売掛金の増加243,606千円、商品の増加62,706千円、売掛金の増加48,739千円等によるものです。固定資産は1,043,995千円となり前連結会計年度末と比べ227,773千円増加いたしました。これは、主としてのれんの増加181,837千円によるものです。

② 負債

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は2,923,212千円となり前連結会計年度末と比べ373,675千円増加いたしました。これは、主として未払金の増加161,384千円、支払手形及び買掛金の増加65,127千円等によるものです。固定負債は1,295,917千円となり前連結会計年度末と比べ75,464千円減少いたしました。

③ 純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上252,310千円、配当金の支払い252,543千円等により、前連結会計年度末と比べ5,279千円減の7,935,292千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月9日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,229,774	3,916,623
売掛金	1,497,184	1,545,924
割賦売掛金	4,983,369	5,226,976
商品	361,859	424,565
リース投資資産	65,796	61,690
その他	227,130	279,849
貸倒引当金	△319,846	△345,203
流動資産合計	11,045,268	11,110,426
固定資産		
有形固定資産	182,944	194,530
無形固定資産		
のれん	20,112	201,950
その他	158,245	169,869
無形固定資産合計	178,357	371,819
投資その他の資産		
その他	639,991	661,065
貸倒引当金	△185,071	△183,420
投資その他の資産合計	454,920	477,645
固定資産合計	816,221	1,043,995
資産合計	11,861,490	12,154,421
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	306,192	371,319
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	290,000	290,000
リース債務	2,070	2,370
未払法人税等	127,526	130,581
賞与引当金	102,300	64,013
役員賞与引当金	5,000	6,750
株主優待引当金	1,070	—
その他	1,315,377	1,658,177
流動負債合計	2,549,537	2,923,212
固定負債		
長期借入金	1,285,000	1,212,500
リース債務	4,132	3,136
資産除去債務	18,870	18,870
その他	63,378	61,410
固定負債合計	1,371,381	1,295,917
負債合計	3,920,919	4,219,129
純資産の部		
株主資本		
資本金	658,358	658,358
資本剰余金	281,738	281,738
利益剰余金	7,137,371	7,137,139
自己株式	△152,286	△159,707
株主資本合計	7,925,181	7,917,527
新株予約権	15,389	17,764
純資産合計	7,940,571	7,935,292
負債純資産合計	11,861,490	12,154,421

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	3,006,971	3,856,257
売上原価	1,256,349	1,626,369
売上総利益	1,750,622	2,229,887
販売費及び一般管理費	1,531,553	1,846,741
営業利益	219,069	383,146
営業外収益		
受取利息及び配当金	15	993
貸倒引当金戻入額	138	140
受取手数料	3,220	3,608
その他	538	577
営業外収益合計	3,912	5,319
営業外費用		
支払利息	1,915	2,582
その他	260	150
営業外費用合計	2,175	2,732
経常利益	220,806	385,733
税金等調整前四半期純利益	220,806	385,733
法人税、住民税及び事業税	43,682	120,916
法人税等調整額	34,306	12,505
法人税等合計	77,989	133,422
四半期純利益	142,816	252,310
親会社株主に帰属する四半期純利益	142,816	252,310

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	142,816	252,310
四半期包括利益	142,816	252,310
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	142,816	252,310

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産の減価償却方法については、従来、当社及び子会社は、定率法（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備は定額法）を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より減価償却方法を定額法に変更いたしました。

当社グループ内の会計処理の統一を図る観点から、有形固定資産の使用実態を検討した結果、当社及び子会社で利用する有形固定資産は、耐用年数にわたり安定的に利用しており、費用を均等に計上することが当社及び子会社の経済的実態をより適切に反映できると判断したため、定額法を採用することにしたものであります。以上の変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ758千円増加しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	32,441千円	27,006千円
のれんの償却額	19,619	7,657

(注) 前中間連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計
	インター ネット通 信サービ ス事業	ロボット 事業	ウオータ ーサーバ ー事業	リユース 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,403,463	550,175	36,794	—	2,990,433	16,537	3,006,971
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,403,463	550,175	36,794	—	2,990,433	16,537	3,006,971
セグメント利益又は損失 (△)	455,432	△104,485	12,587	—	363,535	△1,687	361,847

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 2025年3月期中間期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期第1四半期連結累計期間に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	363,535
「その他」の区分の利益	△1,687
全社費用(注)	△142,778
四半期連結損益計算書の営業利益	219,069

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	インター ネット通 信サービ ス事業	ロボット 事業	ウォータ ーサーバ ー事業	リユース 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,621,089	695,921	143,030	365,447	3,825,489	30,767	3,856,257
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,621,089	695,921	143,030	365,447	3,825,489	30,767	3,856,257
セグメント利益	394,334	66,842	20,247	7,482	488,907	7,560	496,467

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	488,907
「その他」の区分の利益	7,560
全社費用（注）	△113,321
四半期連結損益計算書の営業利益	383,146

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当1四半期連結会計期間において、株式会社SENKAを連結子会社化したことに伴い、報告セグメント「リユース事業」を新たに追加しております。また、連結子会社株式会社ライフスタイルウォーターでの新事業拡大の為、重要度を考慮して「その他」の区分から「ウォーターサーバー事業」として追加しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の区分で記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「リユース事業」セグメントにおいて、当第1四半期連結会計期間に株式会社SENKAの株式を取得し連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は189,495千円であります。なお、のれんは当第1四半期連結会計期間期末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。